



農業士会だより

No.127



会長挨拶

十日町ブロック 北村 公太郎



私の住む十日町では、今シーズンは小雪で例年よりも20日近く雪消えが早く、春作業がバタバタとはじまってまいりました。早く雪が無くなるのはいいのですが、残雪に頼るところが大きい天水田やダムのかき用水が心配です。

さて、令和5年の5月8日から、新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが季節性インフルエンザと同様の「5類」に移行することが正式決定されました。行動制限等が実質的になくなり、感染症対策は必要ですがコロナ禍以前の状態に戻ります。

令和4年度は、50周年記念式典・祝賀会・大花火大会をはじめ、農業士EXPO、異業種交流会「新潟アグリキャンプ」と各種イベントを開催することができました。関係企業、団体、農業士OB、現会員の皆様のご協力のおかげです。改めて感謝申し上げます。

感染症対策という制約がありながらでのイベント開催で、課題もたくさん浮き彫りとなりましたが、役員・理事一同楽しんで取り組むことができ、どれも今後の活動へとつながる成果がありました。3月に行われた第50回通常総会においても、各会員より、農業士会の肝である研修・交流活動を活発化してほしいという要望を多くいただきました。新たに事務局に加わってくださった(株)デイモルギア様からもご協力いただき、令和5年度の農業士会活動を活性化していきたいと考えております。

食料品をはじめ身の回りのあらゆる商品の値上げが相次ぎ、電気料金、肥料、飼料、資材の高騰が激しく農業経営を圧迫しておりますが、それにも負けず、県内では耕畜連携や未利用資源の肥料活用など、様々な「目から鱗」の取組みを実践している農家・企業がたくさんあります。農業士会活動を通して、そういう先駆者の方々の交流を深めたいと思います。会員の皆様からも積極的にイベント等に参加していただき、一緒に個々の経営を磨き上げていきたいと思います!!

令和4年度新潟県青年農業士・指導農業士・ 農村地域生活アドバイザー 新認定者の皆様へ

青年農業士・指導農業士・農村地域生活アドバイザーに認定されました皆様にお祝いを申し上げます。

また、皆様には日頃から本県農業の振興と発展に御協力をいただき、心から感謝を申し上げます。

さて、近年は、生産年齢人口の減少や高齢化、消費者ニーズの多様化による農産物需要の変化に加え、地球規模の気候変動や世界情勢の不安定化等に伴う原油や肥料、穀物・飼料価格等の高騰など、農業を取り巻く環境は大きく変化してきております。

今後とも、本県が日本の食料供給基地として食料安全保障の確立に寄与していくためには、持続可能な生産体制を構築することが重要であると考えると考えております。

このため、県では、本県農業の魅力発信と合わせ、担い手への農地の集積・集約や規模拡大、法人化等の構造対策と、新潟米や園芸の基本戦略等に基づく生産対策とを車の両輪として推進するとともに、国が進める「みどり

の食料システム戦略」を踏まえながら、SDGsの取組にも沿った環境と調和のとれた持続可能な農業の実践や、スマート技術の導入などにより、効率的で付加価値の高い儲かる農業、成長産業としての農業の実現を目指しているところでです。

そうした中で、本県農業のまさに牽引役である皆様からは、これまでの前例や慣習にとらわれないこと、新しい感性で新潟県農業の未来を切り開いて欲しいと願うとともに、若者にとって「魅力ある農業」の体現者として地域のリーダーとなり、稲作・園芸・畜産・農村生活それぞれの部門において、本県農業を先導くださることを御期待申し上げます。

結びに、皆様のますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和5年1月25日
新潟県知事 花角 英世

令和5年新潟県農業士会 役員名簿

役員

| 役職名 | ブロック | 氏名 |
|-------|------|--------|
| 会長 | 十日町 | 北村 公太郎 |
| 副会長 | 新潟 | 大岩 和正 |
| 副会長 | 南魚沼 | 高野 将宏 |
| 事務局長 | 長岡 | 岩渕 高雄 |
| 会計 | 燕三条 | 番場 稔文 |
| 作物部会長 | 佐渡 | 神蔵 治人 |
| 園芸部会長 | 南魚沼 | 今村 将哉 |
| 畜産部会長 | 新潟 | 相馬 成実 |
| 作物副会長 | 上越 | 松野 千恵 |
| 園芸副会長 | 長岡 | 金子 悟 |
| 監事 | 長岡 | 伊藤 一郎 |
| 監事 | 燕三条 | 山寄 哲志 |

理事

| ブロック | 氏名 |
|------|--------|
| 村上 | 遠山 利幸 |
| 新潟 | 小野 晴貴 |
| 新潟 | 皆川 洋輔 |
| 新潟 | 成田 稔雄 |
| 巻 | 伊丹 浩大 |
| 新潟 | 若月 要 |
| 長岡 | 金子 健斗 |
| 柏崎 | 杵渕 隆則 |
| 魚沼 | 古田島 正信 |
| 上越 | 小島 陽 |
| 佐渡 | 土屋 智徳 |

ブロック長

| ブロック | 氏名 |
|------|--------|
| 村上 | 本間 賢二 |
| 新潟 | 荒木 祥史 |
| 新潟 | 佐藤 千城 |
| 巻 | 鈴木 暁雄 |
| 新潟 | 鈴木 裕昭 |
| 燕三条 | 須佐 徳人 |
| 長岡 | 小原 周市 |
| 柏崎 | 杵渕 隆則 |
| 魚沼 | 八木 慎太郎 |
| 南魚沼 | 原澤 太一 |
| 十日町 | 綱 大介 |
| 上越 | 橋本 惇康 |
| 佐渡 | 葛西 大樹 |

新認定者紹介

魚沼ブロック 森山 高広

はじめまして、今年度認定を受けました魚沼地区の森山高広と申します。私は魚沼地区で夏期はヨリ切り花の生産、冬期は山菜のタラの芽の生産を行っております。

私は青年農業士会の活動を通して、様々な人と交流し知識や人脈などを得て自分の農業に活かしていけたらなと思っております。
まだまだ未熟ですが、これからよろしく願います。

南魚沼ブロック 関 駿雄

この度、青年農業士の認定を受けました、北陸最大の都市、南魚沼市の関 駿雄です。

青年農業士として、立場とコミュニティを活かし、地域をけん引していき、地元の起爆剤になるような人間・必要不可欠な経営体を目指したいと思っております。

新発田ブロック 蜂谷 誠基

令和5年度に新認定されました新発田市の蜂谷誠基です。

農業士会で、これから様々な活動に参加できることを楽しみにしており、それらを良い機会と捉えて自分の活動視野を広げ、また仲間づくりを楽しむ地域農業に貢献できるように努みたいと思っております。

新発田ブロック 近藤 祐生

はじめまして、胎内市にて農事組合法人未来つじじを営んでおります、近藤と申します。

平成30年に他産業から就農したため農業経験や知識が少ないので、農業士の活動を通じて多くの農業者の方たちと交流させて頂く事で、幅広い知識や情報を習得し、法人経営を進展させていくとともに地域農業を担っていききたいと思っております。
宜しく願います。

長岡ブロック 金崎 優

青年農業士となり、県内全域の諸先輩方と交流を持つようになるようになりました。沢山の交わりの中から学び、農業の担い手として小千谷の農業に貢献できるよう頑張りたいと思っております。よろしく願います。

長岡ブロック 土田 健太

私は長岡市で稲作を家族経営で行なっています。

何かと厳しいご時世ですが、このタイミングで青年農業士の認定を受けられたことは、今後の経営や稲作をより良くしていくために非常に糧になると思っております。まだまだ未熟者ですが今後ともよろしく願います。

上越ブロック 上野 千一

今年度より青年農業士に認定していただきまして、上越市の上野と申します。主に水稲と露地野菜の作付けをしており、園芸担当として枝豆やブロッコリー、たまねぎなどの生産管理や販売を行っております。青年農業士間での情報交換や活動を通して、自身の経営に生かしていきたいと思っております。よろしく願います。

新発田ブロック 吉村 優作

令和5年度より新潟県青年農業士に認定されました、吉村優作と申します。私は、胎内市にある株式会社白鳥生産組合で代表取締役をやっております。

就農年数は26歳の時に就農したので今年で32歳の就農6年目になります。会社の栽培作目は、稲を中心に大豆、そばの3つです。会社での主な業務はトラクター、コンバインのオペレーター業務です。

農業士会では、新潟県のような農業士の方々との交流で農業知識、技術の情報交換や農業以外の趣味などを通じて仲間作りがしたいです。まだまだ、農業者として未熟な面もありますが、これからよろしく願います。

十日町ブロック 村山 周平

新規事業として、5年以内にネット販売で売上1000万円を作りたいことを目標としました。今年は販売ページと米袋の作成にお金をかけ、既存のECサイトも活用する等して、動いて参りたいと思っております。

長岡ブロック 金井 宏晃

水稲農家に就農して15年目になります金井です。これまでは他の農業者とはあまり交流がなかったのですが、農業士の活動に積極的に参加していきたいと思っております。よろしく願います。



新認定者歓迎会 基調講演

副会長 高野 将宏

『展望の持てる農業経営確立に向けた緊急講演会』にて東京大学、鈴木宣弘教授の講演を聞いて、今まで日本の食糧自給率の低迷・化学肥料の価格が年々徐々に上昇していたがここに至るの急騰。日本の農業は世界の流れの中で良くも悪くも変化が起こりやすいという事を理解してしまつた。

私自身一生懸命に農業に従事してれば、何とかなるだろうとたかを括っていたのも事実。これからの農業のあり方を真剣に考えて行動していかなければならないと重く受け止めた講演だった。

これまでのやり方で農業をしていくだけでは限界が来るのは目に見えている。種も肥料も飼料もほぼ輸入に頼っている現実を目を向けて、一緒に働く従業員の負担も軽減していきながら売上を上げなくてはならない。ただただ悲観しているだけでは何も始まらない。

こんな時だからこそ楽しみながら新たな農業のやり方を模索していきたいと思う。

昨年より取組んでいる自家用鶏の飼料用トウモロコシ栽培を拡大して、まずは自社食糧自給率を上げるために従業員達と鶏と卵の恩恵を分かち合おうと思う。

今後は化学肥料価格高騰対策として、廃菌床堆肥の質のレベルアップと米ヌカ発酵ボカシ肥料の作成にも力を入れていきたいと思う。



50周年記念式典

令和4年11月17日
場所/アオーレ長岡



実行委員長として 50周年記念式典を終えて

実行委員長 伊藤 一郎

まず、この度、農業士会50周年記念式典及び祝賀会に際して、多大なる支援を頂きました会員の皆様、OBの皆様、多くの御協賛企業様へ心より感謝申し上げます。

この2年間、コロナ禍により、実際に集まりたくても集まらない状況の中、Zoom会議やLINEのやり取りだけで周年事業の準備を進めて参りました。そんな大苦境の中、実行委員の皆様のご強力なサポート、支え合いで準備を整える事が出来ました。

迎えた当日、式典では、沢山の会員、OB、来賓の方々に加え、花角知事にもお越しいただきました。祝賀会では、花火師さんとも入念に打ち合わせを重ね、想像をはるかに超える大花火大会を行う事が出来ました。

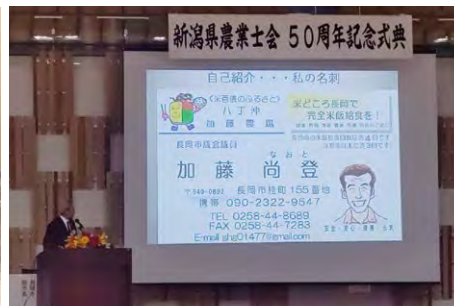
実際に会場に参加された皆様か

らは、「こんなに感動した周年事業はない」と言う声が沢山聞かれ、準備期間中ずっと抱えていた謎の体の不調からくる痛みが、スツッと消えていくのを体感しました。

実行委員長をやってみて感じた事は、この立場、状況に立った時にしかわからない気持ちや感情、事情があり、ここで見たその景色は、天国でもあり、地獄でもありました。

しかし、それをただ見た景色だけで終わらせる事なく、その経験を今後の農業士会へ貢献する事で、この50周年の実行委員長としての本当の役目を終える事が出来るのではないかと強く思いました。

改めて協力をしてくださった方、当日参加してくださった方、そして、ずっと一緒に頑張ってくれた役員の皆様へ！ありがとうございます！



平成24・25会長 竹野 勝行

令和4年11月17日に行われました、農業士会50周年記念式典では、お招きいただき、誠にありがとうございました。

式典では、花角県知事をはじめ各業界から多数の来賓の皆様が来られ、盛大に花火も打ち上げられ、大変盛り上がり、非常に楽しむことが出来ました。本当にありがとうございました。

40周年記念式典当時、私は会長を務めており、実行委員長岩淵さんと共に記念式典の運営に携わらせていただき、実行委員のメンバーや、士会役員の方たちと共に、式典を成功させるべく、動いておりました。時には、熱く議論になったりと非常に大変な事業に関わりましたが、みんな気持ちを一にし、向かっていたことを思い出します。

今回の50周年記念式典事業に関わった、すべての皆様、大変お疲れさまでした！これから農業者として、恐らく一生のお付き合いになると思いますので、関係を大切にしていっていただきたいです。

50周年式典当日、農業士会の先輩方と一緒に動いた同世代の方と久しぶりに会うことが出来、それぞれの農業者としての動きの話がとても参考になりました。そして現在の士会の皆様といろいろとお話をさせていただき、生き生きとしている姿を見て、自分への励みになりました。また、どこかで御一緒になる機会が、今後もあると思いますので、これからもよろしく願っています。

最後に、50周年記念式典、最高の式典でした！！ ありがとうございます！！

平成26・27会長 渡部 允循

H18年に認定されて、当時は新認定から5〜6年は忙しき、遊びたさ、めんどくささを言い訳に会に顔を出さない一人でした。いわゆる幽霊。

でも、漠然とした疑問、小さな不安は当たり前前にありました。まだ経営者ではない自分の中で「我が家はこのままでいいのだろうか？」「あいつの家の経営はどなっているのだろうか？」疑問が芽生えたのもこの時期だったかもしれません。大きい年間行事はゴッソリ参加して、右左わからず懇親会だけを楽しみにして顔を出していません。同席の会話はお酒の勢いを借りて知り合いを増やそうと真面目な話しをしながら、盛り上がってくれば馬鹿な話しかかしてない同じ境遇のこんな会員達に引かれていきました。

農業士会の会長職の打診があったのは7年目の、1月下旬頃あの電話一本からでした。「副会長から軽く飲みに行こうよー」

当時の会長、副会長、会計、事務局の4人(会合の後で飲酒済み)対1人(私仕事終わり)で誘われ近くの居酒屋まで来てくれると言ったことで、渋々行くことに。

個室のドアを封鎖され気味に説得を受け、今思えば、説得して頂きありがとうございました。同じくして任命された副会長、会計、事務局、各役員、ブロック長さん方には支えてもらい、会員のためにやり切った2年間は、とても感謝しています。

実行委員の皆様、会長、役員の皆様には当日までの企画、準備、ありがとうございます。

新潟県農業士会、OBの皆様方が益々の活躍されることを願っております。

平成28・29会長 岡田 友幸

令和4年11月17日(木)アオーレ長岡にて、新潟県農業士会50周年の式典が行われました。

前回の40周年式典から早10年が経ち、会員と活動に携って頂いた方々との様々な事業を思い返すと、万感胸に迫るものがあります。

式典の記念講話では、新潟県農業士会OBで長岡市議会議員の加藤尚登様から「農業士会の思い出」と題してお話を頂きました。農業士時代に研修でヨーロッパまで行ったことや、当時の農業士仲間の皆さんと今でも深く親交が続いているというエピソードがとても印象的でした。

そして花角知事をはじめ多くの皆様から祝辞を賜り、最後はこの10年の歴代会長への感謝状贈呈と記念撮影で締められました。皆さんと良い笑顔でこの日を迎えられる大変嬉しく思います。

感染症の影響がある中にも関わらず企画・運営して下さった実行委員の皆様、本当にありがとうございました。

平成30・平成元年会長 永塚 崇嗣

新潟県農業士会の50周年記念式典が盛大に開催されたことに、心よりお祝い申し上げます。

農業士として、地域・産業・異業種・行政の連携を図り、農業発展に貢献されたこと、そしてその取り組みが50年にわたり継続されてきたことは、本当に素晴らしいことだと思います。

これまでの50年間で、時代の変化や社会のニーズに応えながら、新しい技術や知識を習得し、栽培や販売に繋げてきま

した。また、農業士会を通じて、情報交換や人脈の構築を進め、仲間づくりの大切さ、個人だけでなく地域の農業発展につながる様々な取り組みが行われたことは、大変意義深いことです。今後も、食料生産の安定や地域の農業発展に向けて、農業士の皆様、丸となつて取り組まれることを期待しています。そして、地域社会において更なる発展を遂げることを願っております。

50周年の記念すべき節目にあたり、改めてお祝い申し上げます。今後とも、新潟県農業士会の発展と、皆さん一人一人が輝ける農業が続けられることに心より応援します。



農業士EXPO2022

in ANAクラウンプラザホテル新潟

作物部会長 神蔵 治人

令和4年度の専門部会活動として7月12日に新潟市内のANAクラウンプラザホテル新潟にて「農業士EXPO2022」を開催しました。世間ではまだまだコロナの流行が収まらず、前年に引き続き規模を縮小し、現地開催+YouTube配信を行い、協賛いただいた企業のPR動画を会場内で流す他、YouTubeの農業士会チャンネルにあげる形を取りました。

イノフィス、クボタ、ヤンマー、全農新潟の4社に講演を行っていただきました。また、この4社については会場内にブースを設け、講演合間の休憩時間などに情報交換ができる場を作りました。

特にイノフィス様には「農業現場でのアシストスーツ活用法」について対談形式でお話ししていただくとともに、会場ブース内で試着体験会を行い、多くの会員が試着し、その感想を話し合っていて大変盛り上がりを感じました。

今回は会員の皆と会場で顔を合わせ、話し合えるEXPOにしたいとの思いが強く、専門部会、役員一同と話し合った結果、このような形になりましたが、久しぶりに会員同士が顔を合わせたのイベントとなり、その後の懇親会も大いに盛り上がりがあったのでこれ良かったと思います。今回のイベントに参加、ご協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。



畜産部会長 相馬 成実

いくとびあ食花でアグリキャンパスを開催しました。農業士の皆さんが各々作っている作物を持ち寄り出店したり、稲刈り後の10月開催ということもあり色々な種類のお米によるおにぎりの食べ比べ等、一般の消費者の方へ向けた催し物をさせていたいただきました。

多くの農業士の方々が集う場でどんな作物を作っているかなどを話す機会があっても、実に目にする機会がなかったのを、改めて知ることができ、同時に交流を重ねるいいきっかけになりました。良い刺激も頂きました。

また、県内で農業をしながら、動画配信やSNS等で発信をされている山倉慎二さんをお招きして講演をしていただきました。

そこで感じたのは、ただ作って出荷することだけではダメで、農業を知ってもらおう発信しながらも、本人がいかに楽しみながらやっているかが大切で、見る人にも、商品や農業への興味を持つてもらおうが必要となってきているんだなと思いました。

今変わる時代の中で、農業にもデジタル化の普及が進み、省力化が可能になってきている事と共に、農業士である私達が農業の魅力を伝えていかなければならないのだと思いました。



新潟県農業士会 第50回通常総会議事録

令和5年3月9日14時
会場：ホテルグロバールビュー新潟

第1号議案

令和4年度活動報告

Q・新発田ブロック：大倉さん：三役会の回数が例年に比べて多いですが、専門部会長も参加しておるとは思いますが、県連の運営体制は大丈夫でしょうか？

A・北村会長：随時ZOOMやLINEで対応出来ております。今後もコミュニケーションを取りしっかり運営してまいります。

Q・新潟ブロック：笠原さん：理事会ですが参加者が少ない時があるので、理事の予定などを確認して行っていますか？

A・岩淵事務局長：まずは3役・役員の場合を優先しており、理事の参加者が少ない状況がありました、来年度は理事の日程調整も踏まえて検討します。

大岩副会

今年度は理事の役役を出していただき、理事会やイベントに参加していただくことを検討しております。

第2号議案

令和4年収支決算及び監査報告

Q・村上ブロック：石栗さん：令和3年度繰越金は見込みではなく確定ではないのでしょうか？

A・番場会計：訂正します。見込みは削除してください。

第3号議案

50周年活動報告、収支決算、監査

第4号議案

5年度活動計画案並び予算案

Q・新発田ブロック：本田さん：国内外研修ですが、コロナも5類に引き下がりますので、県外・国外を視野に計画をお願いいたします。

A・北村会長：前向きに検討します。東京に行った時は農家や新潟の人がやっている店に行つた。福島へ行ったときはマイクロバスを借りて農業関係会社に視察。基本的に大きな農家や農業会社・お店

Q・新発田ブロック：大倉さん：予算案で昨年は繰越金が見込みになって

います。今回はないのですか？

A・番場会計：見込みに訂正してください。

Q・新発田ブロック：大倉さん：事務局も自分たちになり、負担も増えています、事務委託も必要ではありませんが、その分異業種交流会の予算を減らしてはいますが、ブロック活動費の

予算を項目間流用で有効に活用していただきますよう検討してください。

A・北村会長：理事会や専門部会などで検討します。

Q・新潟ブロック：高橋さん：会費ですがブロック・県連にお支払いしていますが、コロナで活動も難しいかと思いますが、来年度からは県連に会費を支払っていますので、活発な活動をお願いいたします。

A・北村会長：県連会費もいただいているので、しっかり活動していきたいと思います。

第5号議案 会費賦課金

第6号議案 規約改正案

Q・新潟ブロック：加藤さん：第12条ですが、事務局が県から自分たちですることになり、来年度から委託されますが、委託先のわかる範囲で情報を教えてください。

A・岩淵事務局長：会場の手配・案内文書の作成など対外に関する庶務を委託し、会内への周知については昨年どおり事務局で対応します。今年の1年間で精査したいと思います。

その他

Q・質問：新発田ブロック：大倉さん：コロナも落ち着いて来ているので、ブロック長や役員で他のブロックとの交流に注力していただくよう、よろしく願っています。

A・北村会長：ブロック長のLINEグループがあるのでうまく活用していきたいと思えます。

Q・新発田ブロック：姉崎さん：50周年記念に関して、否定的な意見がありました。リスペクトの気持ちをもち、提案については改善案など、協力体制をお願いいたします。

Q・上越ブロック：大滝さん：50周年記念に参加されたOBとお話をしました。実行委員は自分の仕事もありたいへんだと思いますが、改善する点も多いですが、赤字じゃないなら問題ないんじゃないかとおっしゃっていました。

A・実行委員会：伊藤さん：様々なご意見ありがとうございます。今回も前回と同じく40万円の繰越金も出れました。また次回の60周年に向けて頑張りたいと思います。



農業士会を振り返って

退会者 上越ブロック 大滝和弘

新潟県農業士会に所属させていただいた間、多くの経験と勉強をさせていただき、そして多くの農業士と出会えたことは私にとってとても大きな宝であります。本当に感謝しかありません。

青年農業士認定後、3年ほどは幽霊会員でした。ある年の冬、ブロックの先輩農業士から「県土会のブロック理事をお願いしたい」との打診を受け、県土会活動に参加することになり、県理事を2年、県副会長を2年、ブロック長を2年務めさせていただきました。

特に副会長を務めた2年間は非常に大変でありました。当時の役員・理事と協力して会運営を図り、また先輩役員様や会員様から数々の指導や意見をいただきましたこと、どうか役職を全うできたのか

など振り返ります。本当にありがとうございます。

役員もさせていただいたことで多くの経験が積まれました。広い新潟県に多くの仲間ができました。広い新潟県に多くの仲間ができました。県主催イベントや会議の受付で「お疲れ様です。もちろん二次会も出席ですよね。」と言ってもらえること、当時の役員同士連絡を取り合っ

つからか覚えていないけどいつも一緒にいる3人の一員でいられることなど、本当にありがとうございました。皆様と貴重な時間をすごさせて頂き、本当にありがとうございます。新潟県農業士会に改めて感謝いたしますとともに、貴会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。

退会者一覧

| No. | ブロック | 氏名 |
|-----|------|---------|
| 1 | 新発田 | 宮村 孝 義 |
| 2 | 新津 | 渡辺 崇 |
| 3 | 三条 | 五十嵐 大 介 |
| 4 | 長岡 | 小林 弘 志 |
| 5 | 長岡 | 大橋 広 明 |
| 6 | 長岡 | 長部 茂 幸 |
| 7 | 長岡 | 桑原 徹 |
| 8 | 長岡 | 新保 康 弘 |
| 9 | 長岡 | 高橋 淳 一 |
| 10 | 魚沼 | 山内 靖 |
| 11 | 十日町 | 水品 雅 嗣 |
| 12 | 十日町 | 島田 福 徳 |
| 13 | 十日町 | 澤口 晋 |
| 14 | 十日町 | 瀧澤 学 |
| 15 | 上越 | 大滝 和 弘 |
| 16 | 佐渡 | 盛山 保 |

農業士会事務局委託について

株式会社デイモルギア
ブランディング課 課長
亀山 友貴



令和5年度より、農業士会様の事務局を担当させていただくことになりました。株式会社デイモルギアの亀山と申します。理事会や総会の会場手配、議事録作成などを担当させていただきます。

弊社は、地域や企業のブランディングをサポートし、ファンを増やすお手伝いをしております。特にイベントを活用したファンづくりを得意としています。商店街でマルシェを開催したり、佐渡で釣り大会を開催したりして、地域の魅力を伝えることに取り組んでいます。農業士会様とも、イベントの企画や運営に関わらせていただき、皆様のご商売の後押しや新規入会のきっかけにできればと考えています。

農業の発展こそが新潟の発展につながると信じ、これから事務局として皆様の活動をサポートさせていただきます。何卒よろしくお申し上げます。

編集後記

副会長 大岩 和正

今回、農業士だよりの編集をさせて頂きました。副会長大岩です。コロナウィルスの終息が見えてきた令和4年度の活動は、主軸イベントに50周年記念式典を控えた年となりました。会議、打ち合わせはZOOMが9割となり、飲みニケーションが好きな私にとっては、むずむずしながらの一年でした。一方、他のイベントは「以前のように戻そう」と、みんなで団結しスタートしました。一年を通して、会員の皆様や関係者の皆様にはコロナウィルスを言い訳にして、迷惑を多々かけてしまったこともあったかと思えます。しかし、終わってみれば、無事イベントができたことでの達成感を理事、役員含め、会員の皆様と共有できた年でもあったかなと思います。また逆にコロナウィルスのおかげでの学びもあったのではないのでしょうか？農業というツールを通して集まっている農業士会ですが、グループとして農業に凝り固まりすぎず、他業種の方より農業を見てもらい、意見交換の場を設けることも必要になってくるのではないのでしょうか。歴史がある農業士会が、これからどう変化しながら発展していくか、令和5年度も始まっていますが、会員全員で作りますよ!!!

最後になりますが、今回の農業士だよりを発行するにあたり、執筆いただいた皆様、ご協力頂きありがとうございます。

発行所：新潟県農業士会
会長 北村公太郎
電話 〇九〇―七六六九―三三三五
事務局委託：株式会社デイモルギア
新潟市中央区上所一丁目一二十四
電話 〇二五―三三五―七六五六